

「金属系専攻の学生の進む道は広いよ」

「草萌える」——神戸製鋼神戸総合技術研究所見学記

和田 健司¹⁾、星野 英光²⁾、辻 伸泰²⁾

1) 京都大学大学院修士課程(学生会員)

2) 京都大学大学院博士後期課程(学生会員)

1 Prelude

「金属系専攻の学生の進む道は広いよ」

我々が呼びつけられて部屋に入った途端、M教授は言った。我々が面食らっていると彼はこう続けた。

「君らも知っての通り、『鉄と鋼』誌上に職場ウォッチングと言うコーナーが出来てな。今回うちにお鉢が回って来たところ受け入れ先から提示されたのがさっきの言葉なんや。そこですまんが君ら3人向こうに行つてこの言葉の意味を探つて来て欲しいんや。後日その時の模様をレポートとして提出してもらう。そのレポートは『鉄と鋼』誌に掲載されるからそのつもりで分かりやすく書くようにな。」

何という大役か！我々は金属系学生数ある中、自分達がこのように重要な任務に選ばれたことに感激していた。

「お任せください！このような重要な任務に選ばれて光栄です。」

「なにそんなに気張ることはない。この記事はな、軽い読み物程度でいいんや。他のまじめな学生さんやったら必要以上に硬くなってしまう恐れもあるけど、君らみたいにええ加減な奴らやったらその心配もないやろうから選んだだけや。それに真面目に働いている先輩の姿を見たら君らもちよつとぐらいまともになるやろうしな。」

「…そ、それでその受け入れ先と言うのは？」

「うむ、神戸製鋼の西神にある神戸総合技術研究所（これ以降、技研と記す）だ。」

「分かりましたボス、早速飛びます。」

「…君ら何かの見過ぎとちゃうか？」



京大金属系玄関にて。左より和田、星野、辻。

2 Investigation

西神地区は明石の北に位置する(図1)。元は山だったところを切り拓いた造成地である。ここの土はポートアイランドの一部や六甲アイランドに使われた。三宮から市営地下鉄に乗って30分、終点の西神中央駅で下車。タクシーに

乗り10分程度で研究所に着いた。

研究所は西神インダストリアルパークの一角に約15万㎡の敷地を占めている。敷地内に点在する建物は、所内のコミュニケーションを良くするために高さを抑えてある(図2)。我々は小綺麗な建物に通され、丁度昼過ぎという事もあり食堂で昼食をとった。昼飯まで食えるとはなんたる好

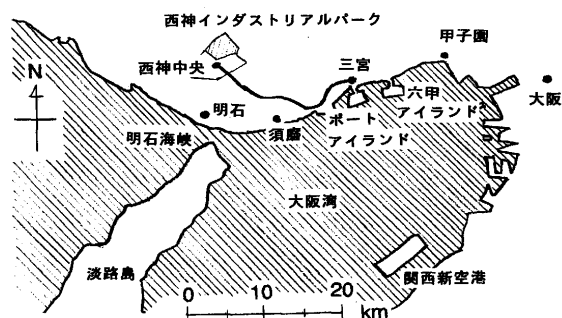


図1 西神地区の位置

運。すっかりいい気分である。しかし任務を忘れる訳にもいかない。

「金属系専攻の学生の進む道は広いよ…」

みなまで言わぬうちにすかさず案内人の藤江さん(女性)が

「会社紹介のビデオを見てもらうと大体のことは分かります。」

おお！なんたる好運！こんなに楽に任務が果たせて良いのだろうか？とにかくビデオを観てみることにした。

このビデオによると、どうやら神戸製鋼は単なる鉄鋼会社と言うわけではないようだ。世話役の海野氏によるとグローバルな展開をめざす企業体とのことだ。分野的には鉄鋼材料に限らず、非鉄材料、機械エンジニアリング、電子・情報事業といったように多岐にわたり、地域的にも米英両国に研究拠点を持つらしい。

なるほど、例の言葉はこの事に関係があるようだ。続いて我々は研究所内の見学に向かった。広くて仕切りのない

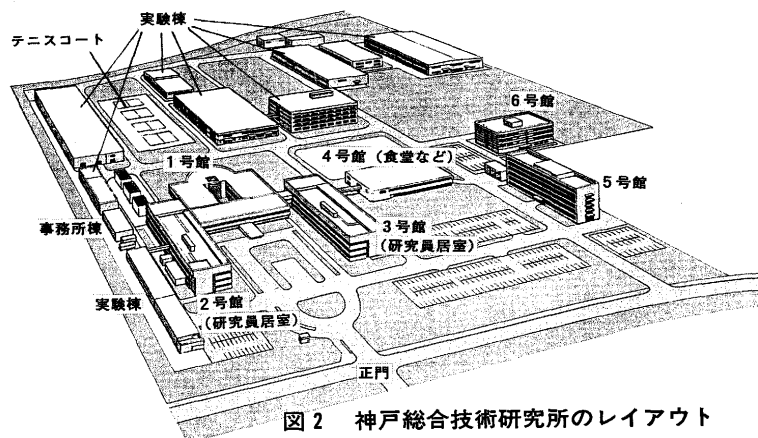
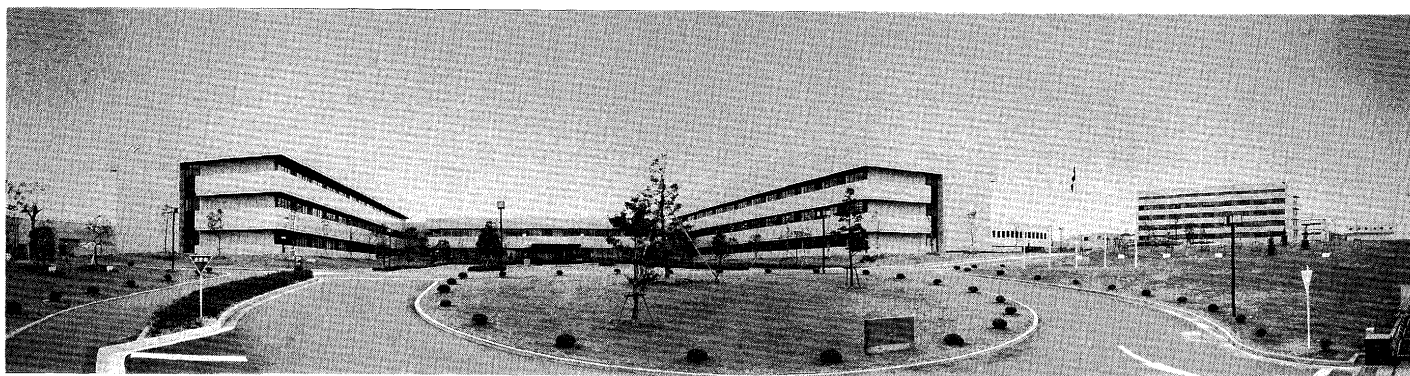


図2 神戸総合技術研究所のレイアウト



神戸製鋼所神戸総合技術研究所全景

研究員居室は1つの建物内にまとめられている。これは異なる分野の研究者間の交流を促す意図があるらしい。ダイヤモンド薄膜デバイス実験棟、スパッタリングターゲット材実験室、超電導低温実験棟を見学し、若手研究者に説明してもらった。

彼らの説明は熱がこもり口調には誇りが感じられた。我々の専攻とはやや縁遠い分野でもあり、大学の薄汚れた研究室に慣れた身には「クリーンルーム」という語の響きは余りにも恐れ多い。そのせいかクリーンルームの手前で足がすくんで動けなくなった。あせって足元を見ると、ゴミ取り用の粘着テープにスリッパがくっついていただけだった。

3 Elucidation

見学を終えた我々は若手研究者との懇談会に臨んだ。出席者は井上、小山、武田、忖倉、Reedの各研究員(写真)である。うち武田研究員は女性、Reed研究員はアメリカ人である。所内には女性研究員が18名、外国人研究員が6名+法務関係の外国人職員が1名いるとのこと、こうした面でもグローバルズムを意識しているようだ。もっとも技研にいる人の総数が1100名なのでまだまだ少数派であるようだが、今後更に増やしていく計画だそうだ。武田研究員は所内に目標とする同性の先輩がおり、それを励みにしている事、Reed研究員は外国人である事の問題を研究所が良く理解してくれると語ってくれた。彼らがなぜ神戸製鋼を選んだかなどを訊いたのち本題を切り出した。

「金属系学生の進む道が広いというのはつまりつぶしが利くというようにも解釈できますが、その場合の金属系学生の持つべき資質は何ですか？」

「う〜ん難しいですね。強いて言えば研究態度でしょうか。大学の時の専門とはあんまり関係のない部署に配属ということもありますからね。でも逆に言うと、大学でやった事とは違う事が出来るという意味で進む道が広いという事だと思いますね。」

なるほど、それなら「金属系学生」という言葉はいらんような気もするが何となく分かった。要するに神戸製鋼は色んなことをやってみて風通しもいい会社だから自分の専門以外の分野にも挑戦できるということだな。ちなみに忖倉研究員曰く

「みんな自然に専門家に成るんですよ。」

なるほどそんなもんかなあ。しかし何にもせんと専門家に成れる程世の中甘くないよな。何にせよ入ってから勉強せんといかんということだろう。最後に各研究員の会社、職場評を紹介しておく。これらの言葉もさっきの結論を裏付けているように思える。

「おおらかな会社です。」

「明るく楽しい職場です。」

「がんばれば主役」

「大事にしてもらってる。」

「視野を広げながら自分を前進させられる。」



懇談会の後、出席者の皆さんと。後列左より藤江さん、和田、辻、星野。前列左より小山さん、武田さん、Reedさん、忖倉さん、井上さん。

4 Intermezzo

それから我々は技研の独身寮を見せてもらった。西神中央駅のすぐそばにあるちょっと変わった形の建物だ。サイドバーやボディソニック装置付きのAVルーム(残念ながらエッチなやつではない)があり、我々は図々しくも管理人さんに頼んでちょっとだけ体験させてもらった。部屋も結構広くて快適そうである。女性専用室にはバスもついている。なかなか結構なところだが現在はほぼ満室状態だそうだ。

5 Epilogue

こうして我々の任務は天気にも恵まれ非常に楽しく終わった。忙しい中、研究所を案内して下さった皆さんには感謝の限りである。寮の見学にまで付き合っていたいただいた忖倉研究員によると研究所の近くにはワイナリーもあるし、明石が近いので新鮮な魚介類を買ってきて食べられるそうだ。全く酒飲みには堪えられない環境である。

「年取って住むんならこんな所がいいな〜」

そんなことを思いながらふと目を上げると窓の外には萌えるような若草があった。

(平成5年6月4日受付)